

RDRA アドイン 利用準備マニュアル

(アドインバージョン 2.3 対応版)

このアドインは、UML や BPMN などに対応するモデリングツール Enterprise Architect の機能を拡張し、Enterprise Architect で RDRA (Relationship Driven Requirement Analysis) 2.0 に対応するモデルを作成する環境を準備するためのマニュアルです。環境構築後の使い方については、別冊の「RDRA アドイン 利用チュートリアル」をご覧ください。

なお、このアドインは、スパークスシステムズ ジャパンが独自に企画・作成しているものになります。RDRA を提唱している神崎様とは直接の関係はありません。

目次

1	準備	2
2	利用方法	2
2.1	初期環境の構築	2
2.2	パッケージとモデルブラウザ	3
2.3	パースペクティブの指定とテンプレートの追加	3
3	アドインのダウンロードと設定	4
3.1	設定	5

1 準備

このアドインの利用には Enterprise Architect 15.0 以降が必要です。それ以前のバージョン・ビルドでは利用できません。このドキュメントでは、Enterprise Architect 15.1 ビルド 1528 を利用しています。

このドキュメントでは、RDRA アドイン バージョン 2.3 を利用しています。異なるバージョンでは、このドキュメントの内容と異なる点があるかもしれません。このアドインは以下の URL からダウンロードできます。古いバージョンを利用している場合には新しいバージョンをご利用ください。

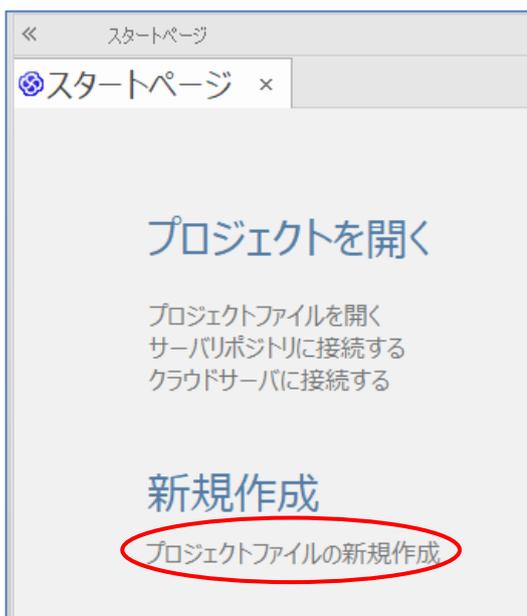
<https://www.sparxsystems.jp/products/EA/tech/RDRA.htm>

古いバージョンがインストール済みの環境では、新しいバージョンのインストーラを実行すると、自動的に古いバージョンのファイルが削除されます。

2 利用方法

2.1 初期環境の構築

まず、RDRA のモデルを格納するための「プロジェクトファイル」を作成する必要があります。Enterprise Architect を起動後、自動的に表示されるスタートページにある「プロジェクトファイルの新規作成」を選択してください。



実行すると、ファイルを作成する位置とファイル名を指定する画面が表示されますので、ファイルを作成して下さい。2 回目以降は、ここで作成したファイル(拡張子が.EAPX のファイル)を開いて、モデルの作成を行います。

2.2 パッケージとモデルブラウザ

Enterprise Architect では、1つのファイル内にてパッケージを利用することで要素やダイアグラムを複数作成し、保存することができます。この構成は「モデルブラウザ」で確認・編集できます。また、ダイアグラムの中に作成した要素は、基本的にはモデルブラウザにも表示されます。

モデルブラウザは要素やダイアグラムの「倉庫」であり、「マスターデータ」です。ダイアグラムの中の要素を選択して Delete キーを押して削除しても、ダイアグラムからの削除となりモデルブラウザ内の要素(マスターデータ)は削除されません。もし再度必要になった場合には、(ツールボックスではなく)モデルブラウザから要素をダイアグラムの中にドラッグすることで、再度配置し利用することができます。

逆に、モデルブラウザから要素を削除すると、図に配置されている要素はすべて削除されます。マスターデータの削除は、元に戻す(Undo する)ことはできません。

(モデルブラウザ内の要素を右クリックして「モデルから完全削除」を実行すると、完全に削除することができます。)

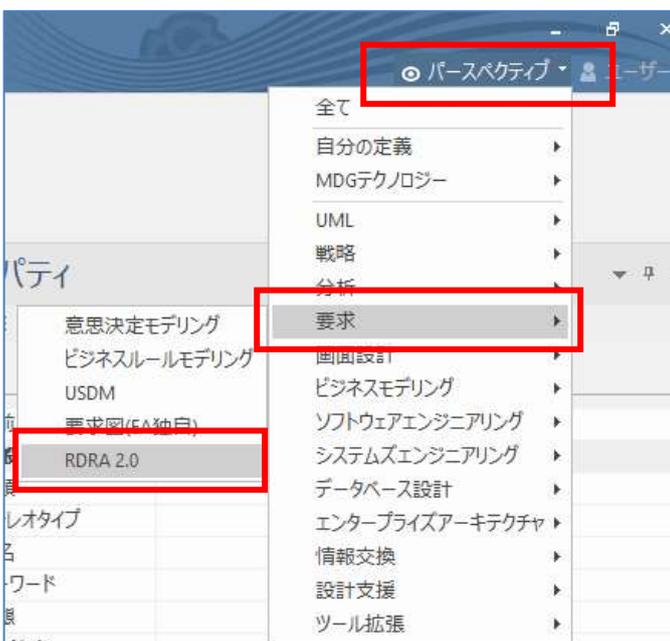
モデルブラウザには、パッケージを自由に作成して、ダイアグラムや要素を整理・管理することもできますが、RDRA アドインの場合にはテンプレートを利用します。モデルブラウザ内の操作については、小冊子「ゼロからはじめる Enterprise Architect」をご覧ください。

https://www.sparxsystems.jp/products/EA/ea_zero.htm

2.3 パースペクティブの指定とテンプレートの追加

Enterprise Architect は、UML や BPMN などさまざまな記法に対応します。そのため、利用する記法を絞り込むことで、効率的に作業ができます。このための仕組みが「パースペクティブ」です。

Enterprise Architect の画面右上にある「パースペクティブ」ボタンを押し、「要求」→「RDRA 2.0」と選択してください。



パースペクティブを切り替えると、自動的に「モデルテンプレート」タブが開きます。「RDRA 2.0 テンプレート」と「RDRA 2.0 サンプル」の2つの項目が含まれます。

(「モデルテンプレート」のタブが開かない場合には、「モデル」リボンの左端の「新規作成」ボタンの下半分を押し、表示されるメニューから「モデルテンプレートの利用」を実行してください。)



新規に RDRA モデルを作成する場合には、「RDRA 2.0 テンプレート」を利用します。「RDRA 2.0 サンプル」は、書籍「RDRA2.0 ハンドブック」に掲載されている内容を Enterprise Architect で表現したデータになります。このチュートリアルでは、サンプルモデルを改変する形で説明しますので、別冊のチュートリアルの内容に沿って操作を試す場合には「RDRA 2.0 サンプル」を選択してください。

利用するテンプレートを選択後、この「モデルテンプレート」タブ内の左下にある「テンプレートの読込」ボタンを押してテンプレートを読み込んでください。モデルブラウザ内にパッケージやダイアグラム(図)・要素が取り込まれます。

なお、このアドインおよびテンプレートは、「業務」→「ビジネスユースケース」→「ユースケース複合図・業務フロー・利用シーン」の3階層があることを前提としています。

ここから先の操作については、別冊の「RDRA アドイン 利用チュートリアル」をご覧ください。

3 アドインのダウンロードと設定

Enterprise Architect で RDRA を利用するメリットの1つとして、Enterprise Architect がもつトレーサビリティの機能をそのまま利用できる点が挙げられます。

Enterprise Architect では標準でいくつかのトレーサビリティに関する機能を持っていますが、実際の現場で利用しているお客様からのご要望を反映した、スパークシステムズ ジャパン独自のアドインを利用することで、さらに効率的にモデルの内容の把握と追跡が可能になります。

このドキュメントでは、以下の 3 つのアドインを利用しますので、それぞれダウンロード・インストールしてください。

- 拡張マトリクスアドイン
<https://www.sparxsystems.jp/products/EA/tech/MatrixEX.htm>
- トレーサビリティマップアドイン
<https://www.sparxsystems.jp/products/EA/tech/TraceabilityMap.htm>
- 利用されているダイアグラムアドイン
<https://www.sparxsystems.jp/products/EA/tech/Addins.htm#ObjectFinder>

これらのアドインのダウンロードは無料ですが、スパークスシステムズ ジャパンから Enterprise Architect を購入した場合のみ利用できます。また、サポート(保守)が有効な期間中のみ利用できます。

それぞれのアドインは ZIP ファイルの形式でダウンロードできます。インストールの方法は以下のページをご覧ください。

<https://www.sparxsystems.jp/products/EA/tech/Addins.htm#install>

3.1 設定

アドインのダウンロード後、RDRA モデルで活用するための設定が必要です。

拡張マトリクスアドイン

拡張マトリクスアドインを利用する場合には、Enterprise Architect のインストールディレクトリにある「MatrixEX_RDRA.ini」ファイルを、Windows の「マイドキュメント」フォルダにコピーしてください。このファイルをコピーすると、下の画像のように、要素の種類を選択で RDRA の要素を指定できるようになります。

(このファイルには、RDRA の定義のみが含まれますので、UML など他の要素に対しても拡張マトリクスアドインを利用する場合には、Enterprise Architect のインストールディレクトリに含まれる既定の設定ファイルの内容とマージし、Windows の「マイドキュメント」フォルダに配置してください。)



トレーサビリティマップアドイン

トレーサビリティマップでは、どのような関係を追跡対象とするかを設定できます。この設定はプロジェクトファイルに保存されるため、RDR モデルが含まれるプロジェクトファイルを開いた状態で、「アドイン・拡張」リボン内の「アドインメニュー」パネルにある「トレーサビリティマップ」ボタンを押し「オプション」を選択してください。

RDR モデルで、情報要素から他の要素を追跡できるようにするための設定は以下の通りです。

トレサビリティマップ オプション

上位方向と下位方向で別設定

上位方向	下位方向
<input checked="" type="checkbox"/> RDRA関係(接続)	
<input type="checkbox"/> RDRA遷移(接続)	
<input type="checkbox"/> RDRAフロー(接続)	
<input type="checkbox"/> 分類子	
<input type="checkbox"/> 型	
<input type="checkbox"/> 親子	
<input checked="" type="checkbox"/> 配置	
<input checked="" type="checkbox"/> 子ダイアグラム	
<input type="checkbox"/> 子要素の分類子	

名前が空欄かつ分類子・型要素を持たない要素は表示しない

分類子・型がある場合、分類子・型を対象要素として表示

モデルブラウザやダイアグラム上で要素を選択した場合、トレサビリティマップ上に同じ要素があれば選択状態にする

トレサビリティマップ上で要素を選択した場合、モデルブラウザ上で要素を選択状態にする

Ver 1.1.1527.0

OK キャンセル